

東大見学会企業大学訪問 感想文

②企業大学訪問（共同通信社）

わたしは、将来アナウンサーになりたいという理由から、マスコミ関係である共同通信社の見学に行きました。共同通信社はテレビ局やラジオ局とは違い、情報を伝える会社ではなく、情報を収集し、それをテレビ局やラジオ局に提供する会社でした。

情報は素早く視聴者に伝える必要があります。そのために共同通信社では様々な工夫を行っていましたが、その中でも3つの事について書きたいと思います。

まず挙げられるのは、建物の構造です。大きなイベントがある際に使われるフロアは、床下が機械のコードを隠しておけるように空洞になっていて、床には小さなマンホールのようなものがあり、そこからコードを入れられるようになっていました。コードに引っかかって転んだり、コードが机やいすの邪魔になったりすることまで考え、効率よく作業ができるように床にまで工夫をしているところから、世界に情報を提供する会社としての意識がとても高いのだと感じました。それに加えて、いろいろな部署が入っている複数のフロアの真ん中が、階段(吹き抜け)になっていました。それは、重要な情報がどこかの部署に入った時に、大声を出せばどの部署にも伝わるようにするためだそうです。実際に、有名な俳優さんが亡くなった時や、オリンピック開催地決定の時などにはそのような方法で情報を伝えたそうです。また、階段も一つではなく複数の方向についているため、会議の時などの移動が素早くできて便利そうでした。実際にわたしたちが見学しているときも、翌日の新聞の編集会議がありましたが、大勢の人たちが一気に移動するにもかかわらず、渋滞せずにスムーズに動いている姿を見ることができました。

次に、役割分担がきちんとなされているということです。共同通信社には複数の編集局があり、その部署ごとに担当している分野の情報収集や情報伝達に力を注いでいました。例えば、日々の政治活動や選挙報道などを担当する政治部、世界経済から見た国内の景気についてや、商品情報など身近な情報を扱う経済部、国内外のスポーツを取材し、2020年の東京五輪で国内公式通信社にも指名された運動部などです。それぞれの部署にはそれぞれの仕事場がありましたが、互いに協力し合いながら働いていました。また、編集局だけではなく、美しく迫力ある映像を届けるためのビジュアル報道局、テレビ局やラジオ局にいち早く情報を提供する放送報道局など、様々な局が連携して情報を伝達していました。働いている方々は、正確、かつ詳細なデータを素早く届けることに尽力していて、自分の仕事に誇りを持っているということがひしひしと伝わってきました。

最後に、共同通信社は、新しい社会のニーズに合った事業を展開し続けているということです。わたしたちが共同通信社に向かう電車の中で見た、ニュース。よく見ると画面には共同通信社の文字が映っていました。実際に話を聞いてみると、電車の中のニュースだけではなく、駅構内や駅前ビルなどに設けられた大型ビジョンでも情報を配信しているそうです。また、インターネットで見ることができる新聞の配信を各地の新聞社と共同で行ったり、日本語以外の言語、英語や中国語での情報の配信なども行ったりしているそうです。この仕事を担っているのがデジタル推進局とメディアラボです。日々刻々と変化し続けるデジタル時代に対応できるように、膨大な量のコンテンツを駆使してサービスの改善に努めているそうです。今ではテレビからの情報よりもネットからの情報の方が速く届くようになりました。これも共同通信社の仕事のおかげであると考えたら、共同通信社から世界中に与える影響がどれほど大きいのかということを実感させられました。

わたしは今回共同通信社に見学に行ったことで、アナウンサーになる上で大切にしようと思うことができました。それは、視聴者や読者のことを第一に思って集めてくれた情報を、丁寧にしっかりと伝えるということです。アナウンサーなら当たり前の事かもしれませんが、わたしはこれまで、アナウンサーの仕事は、テレビ局の

中で最も花形で目立つからかっこいいととらえていました。しかし、実際に伝えられる情報が作られる現場を見させてもらったことで、どれほど情報収集が大変で時間がかかっているのか、どれほど多くの人が一つの情報を得るために努力しているのかを知ることができました。また、担当の方のお話の中にもあったように、海外とも多くの関わりがある共同通信社ですが、AP通信やロイター通信などとの長年の関係や、何度も足を運び複数のネタ元で信頼を得てつかんだ情報などが、共同通信社にとってとても大切なものとなっているそうです。見ている人たちには伝わらない部分であるからこそ、アナウンサーがその人たちの思いもしっかりと踏まえながら視聴者に伝えなければならないと思いました。それから、アナウンサーは伝えることの責任を負い、やりがいを持って仕事をしているからこそ、かっこいいのだと思えるようになり、前よりももっとアナウンサーになりたいと強く思う、良いきっかけとなりました。

加えて、今回は、同じく共同通信社に見学に来ていた兵庫高校の方々とも交流をすることができました。お互いの高校の事、それぞれの地域で起こった震災の事、将来の夢の事など、住む地域の違う同じ高校生と共有し合うことができ、二高について、宮城について、自分の事についても一度見つめなおす、とても良い経験となりました。

見学を許可してくださった共同通信社の方々にとっても感謝しています。

④東京大学見学

日本でトップと言われている東京大学。一度でいいから入ってみたい、そんな気持ちで見学に参加しました。駅から歩いて真っ先に目に入ってくるのは真っ赤な大きな門。テレビでよく見る赤門でした。入ってみると、大学の中で迷ってしまいそうになるくらい敷地が広くて、建物も歴史を感じられるものから、ガラス張りのデザイン性のある最新のものまでいろいろ建っていました。

わたしは将来マスコミ関係の仕事に就きたいと考えているので、経済について学べる経済学部に興味を持っています。そこで、経済学部の模擬講義を受けることにしました。その講義では、1. 経済学、2. 財務分析の2つについて学びました。

経済学を学ぶには数学が大事だそうで、2つのものの関係を数字から読み取ったり推測したりするそうです。内容は難しくついていくことはできませんでしたが、数字という確定したものから世の中を見ることができるのは面白いなと思いました。

財務分析、いわゆる会計は、すでに自分でお金を使うことをしているわたしたちにとって身近な話題であり、興味がある分野でした。今回は会社に視点を当てた講義でした。最近では会社の売り上げを偽造したりする事件が増えています。そのようなところに関わる会計情報について、誰にどんな情報を提示することが義務とされているのか、義務ではない会社のPRであるCMなどについての話がありました。特に面白かったのは、CMに使って1番いい効果をもたらすのは、ドラえもんであるという話です。その理由は、ドラえもんは不祥事を起こさないし離婚もしないため、安定して国民、世界中からの信頼を得られるからだそうで、毎年ドラえもんをCMに起用するための競争率はとても高いそうです。また、大手ハンバーガーチェーンのマクドナルドとモスバーガーの財務の比較を行ない、数字から分かるそれぞれの会社の特徴を読み取りました。例えば、モスバーガーは総資産や売上がマクドナルドの4倍以上少ないですが、営業利益率(売上高-費用)は4倍以上多いそうです。このことから、マクドナルドに比べて、モスバーガーは財務安定性や収益性に優れているといえるそうです。企業の戦略や企業の内状まで数字から推測できるのは面白いと思ったし、マスコミ関係にも直結するCMの効果についても学べるそうなので、経済学の中でも自分は特に、経営学や会計学の方に興味があるのだということが分かりました。

また、自分の興味のある分野ではありませんでしたが、日本の優れた医術を生み出しているであろう、東大理科三類の医学部の講義も受けてきました。現在日本中で言われているグローバル化が医学の世界でも広がっているといった内容で、国際交流を通してもっと素晴らしい技術を日本にもたらしていくべきだと教授の方々は述べていました。日本の医療技術は世界最高峰だと思っていたわたしにとっては衝撃的な内容で、アメリカやヨーロッパでは、日本ではまだすることのできない難しいオペが行なわれていたり、オーストラリアでは看護師が医者レベルの医療処置を看護師の判断で行なったりしているようで、日本はまだ世界の最先端技術からは遅れをとっているそうです。自分の興味のある分野から少し離れた分野の話でしたが、違った視点から経済のあり方やお金の使い方を考える良いきっかけとなりました。これからも理系文系を問わずに様々なことに関心を向けていって、自分が最も勉強したいと思えるような学問に巡り合えたらいいなと思います。

東京大学の講義を実際に受けたことで、大学に対する興味も広がったのでとてもいい経験となりました。勝手に、まじめすぎるとイメージしていた東大より、はるかに明るくて雰囲気よかったです。二高のOBの方が言っていたように、勉強の施設は整っているし、様々なことに挑戦できるため、自分の興味あることをとことん追求できる大学だと思いました。今回の東大のオープンキャンパス見学も参考にしながら、自分の行きたい大学を探していきたいです。



